

第 18 回日本バイオセーフティ学会 総会・学術集会プログラム
会場：戸山サンライズ(東京都新宿区)

11 月 14 日(水)(1 日目)

受付:9 時 30 分～

開会挨拶 9:55～10:00

学会長 森川 茂 (国立感染症研究所)

公開シンポジウム [10:00～11:00]

高病原性病原体に対するワクチン開発の現状

(AMED 我が国における高病原性病原体取扱い者の安全を確保するための研究班共催)

座長 西條 政幸 (国立感染症研究所)

- 1) 痘瘡ウイルスが用いられるバイオテロ対策 (ワクチン・抗ウイルス薬) に関する国際動向
国立感染症研究所 ウイルス第一部 西條 政幸
- 2) 高度弱毒化天然痘ワクチン株 LC16m8 をベースとしたエボラワクチンの開発
国立感染症研究所 ウイルス第一部 吉河 智城
- 3) 非増殖性狂犬病ウイルスベクターを用いた新興再興感染症に対するワクチン開発
国立感染症研究所 ウイルス第一部 伊藤(高山) 睦代
- 4) 高病原性ウイルス感染症対策のための動物モデル開発
国立感染症研究所 感染病理部 永田 典代

ワークショップ [11:10～12:40]

実験動物におけるバイオセーフティ

座長 花木 賢一 (国立感染症研究所)

- 1) 動物実験施設における腎症候性出血熱 (HFERS) 流行から学ぶこと
北海道大学 微生物学講座・病原微生物学分野 有川 二郎
- 2) 「メール連絡:【緊急】LCMV 感染」
理化学研究所 バイオリソース研究センター 池 郁生
- 3) 感染動物実験における封じ込めと関連機器
テクニプラスト・ジャパン株式会社 大村 祐司

総会 [13:40～14:10]

シンポジウム1 [14:20～15:50]

コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱流行について

座長 福士 秀悦 (国立感染症研究所)

1) 国際緊急援助隊・感染症対策チームの概要

外務省 国際協力局 緊急・人道支援課 長谷川 朋範

2) 疫学・公衆衛生班の活動と将来に向けて

国際医療センター 国際医療協力局 法月 正太郎

3) コンゴ民主共和国の国立生物医学研究所での検査体制とバイオセーフティ

国立感染症研究所 ウイルス第一部 下島 昌幸

休憩 [15:50～16:10]

教育講演1 [16:10～17:10]

WHO 合同外部調査 (JEE)による日本の健康危機管理体制の評価とバイオセーフティ・セキュリティ

座長 棚林 清 (国立感染症研究所)

国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 齋藤 智也

懇親会 [18:00～20:00]

11月15日(木)(2日目)

受付:9時30分～

一般演題1 [10:00～11:00]

座長 森川 茂 (国立感染症研究所)

1) 病原体個人防護に関する現状

国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室 篠原 克明

2) 封じ込め施設における室間気流制御の問題点とその評価手法の検討

国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室 原田 俊彦

3) 野兔病菌の安定性と不活化に関する包括的な検討

国立感染症研究所 獣医科学部 宇田 晶彦

4) SFTS ウイルスの不活化方法の検討

国立感染症研究所 ウイルス第一部 福士 秀悦

休憩 [11:10~11:20]

一般演題 2 [11:20~12:00]

座長 杉山 和良 (国立感染症研究所)

5) BSC 作業台面のゾーニング

株式会社日立産機システム 小野 恵一

6) 高圧蒸気滅菌によるカニクイザルの滅菌条件の検討

国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室 伊木 繁雄

7) 農研機構動物衛生研究部門海外病研究拠点特殊実験棟の概要と安全運営

農研機構 動物衛生研究部門 海外病安全管理役 嶋崎 智章

シンポジウム 2 [13:00~14:30]

医療機関における感染危機管理とバイオセーフティ

座長 國島 広之 (聖マリアンナ医科大学)、児玉 栄一 (東北大学)

1) 医療機関におけるバイオセーフティの現状と対策-オリパラ 2020 を含めて-

聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 國島 広之

2) アジアの医療機関におけるバイオセーフティ

JICA チョーライ病院向け病院運営管理・管理能力向上支援プロジェクト

黒須 一見

3) 災害医療におけるバイオセーフティ

東北大学災害科学国際研究所 災害感染症学分野

児玉 栄一

教育講演 2 [14:40~15:40]

長崎大学の BSL-4 施設設置に向けた検討状況について

座長 倉田 毅 (国際医療福祉大学塩谷病院)

長崎大学 感染症共同研究拠点 中嶋 健介